

令和3年度入学生用カリキュラムマップ

【演奏学科】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号															
					凡例： <input type="checkbox"/> ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 <input type="radio"/> ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目															
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志向性	1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
21UMUP1106	情報リテラシー I	1	大学教育に適応し、安全で適切な情報活用ができるための基礎的な情報リテラシーを身につける。コンピュータやネットワークの知識、情報モラルの知識と実践力を育成するとともにオフィスソフトの活用をもとにしたレポート作成の基礎的な技能を確実に習得する。	・本学のシステムやオンラインサービスを知り、使いこなすことができる。 ・基礎的なコンピュータやネットワークに関する知識、情報モラルに関する知識をもち、場面に応じて安全にコンピュータやネットワークを活用することができる。 ・レポートを作成するために必要なソフトの活用技能を習得し、課題に応じた簡単なレポート作成ができる。													○	○		
21UMUP1107	情報リテラシー II	1	MS-Excelを発展的に取り扱うことにより、データ処理の知識と技能を習得する。「情報リテラシー I」では十分に行えなかった、MS-Excel/Wordを連携的に取り扱うことにより、専門教育課程の課題やレポート作成とビジネス現場で適用できるデータ処理の基本的技能を習得する。	専門教育で取り扱う各種データをMS-Excelで処理し、レポート作成や卒業論文に役立つレベルを目標とする。													○	○		
21UMUP1200	主 専 実 技 I A	1	声楽：芸術作品を演奏するに相応しい能力を高める。 ピアノ：芸術作品を演奏するためにふさわしいピアノ演奏能力を高めることを科目目的とする。 ヴァイオリン：ヴァイオリンを通して音楽に親しみ、より深く理解し、演奏技術と豊かな表現力の向上を目的とする。 ヴィオラ：ヴィオラ演奏の向上を図る。 チェロ：チェロを通して音楽に親しみ、より深く理解し、演奏技術と豊かな表現力の向上を目的とする。 フルート：フルートを媒体としての音楽表現力の向上を目指す。 オーボエ：演奏力を高めるための基礎と知識を学ぶ。 クラリネット：クラリネットを演奏する上で求められる演奏技術、音楽性や知識を習得すること。またレパートリーの拡充を目的とする。 ファゴット：楽器構造の理解を中心に知識を深めるとともに、演奏のための基礎を向上させる。 サクソフォン：サクソフォンの基礎奏法、音楽的な解釈を学ぶ。 ホルン：ホルン奏者としての演奏技術と幅広い知識を習得する。 トランペット：音楽表現において必要な技術と知識を学ぶ。 トロンボーン：楽器構造を理解し演奏基礎を向上させることを目的とする。	声楽：演奏するために必要な技術、音楽性、表現力を身につけることを目標とする。声楽は身体全体が楽器となるため、柔軟な体を作り、基礎的な呼吸法、発声法を習得する。 ピアノ：試験課題を演奏するに必要な技術・音楽性・表現力を身につけることを到達目標とする。 ヴァイオリン：獲得した知識・技能を自らの演奏に活かす。 ヴィオラ：ヴィオラの様々な演奏技術や楽器の構造、歴史などを幅広く身につける。 チェロ：チェロの様々な基礎技術や楽器の構造、歴史などを幅広く身につけ、与えられた課題を慎重かつ真面目に自発的に取り組む姿勢を養う。 フルート：音楽を表現するための妨げとなる、フルートという楽器の制約（低音域の音量が乏しい、跳躍した音型のレガート奏法の困難さ等）を克服するための方法を、自ら考え適応力を身につける。 オーボエ：音楽史における様式の理解に則った演奏の方法を身につける。 クラリネット：クラリネット奏者としての基礎能力を確立する。 ファゴット：演奏技術を向上させ、様々な様式の楽曲に取り組むための準備を整える。 サクソフォン：サクソフォンの基本的な奏法を身につけ、古典的なレパートリーが演奏できるようになる事を目標とする。 ホルン：演奏技術の基礎を確立させるとともに、自発的に研究を行う姿勢を身につける。 トランペット：演奏における基礎を確立させ、楽譜を読み解く解釈の方法を身につける。 トロンボーン：演奏における基礎技法を確立させ、様々な音楽表現に基礎を応用させるための力を養う。													○	○	○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例： <input type="radio"/> ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 <input type="radio"/> ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 1. 知識・理解 2. 技能・表現 3. 思考・判断 4. 態度・志向性 1-1 1-2 1-3 2-1 2-2 2-3 3-1 3-2 3-3 4-1 4-2 4-3									
21UMUP3205	主 専 実 技 III B	3	<p>声楽：芸術作品を演奏するに相応しい能力を高める。</p> <p>ピアノ：芸術作品を演奏するためにふさわしいピアノ演奏能力を獲得することを科目目的とする。</p> <p>ヴァイオリン：前期の学習をふまえて、さらに音楽やヴァイオリンへの理解を深める。</p> <p>ヴィオラ：音楽性を向上させる。</p> <p>チェロ：前期の学習をふまえて、さらに音楽やチェロへの理解を深める。</p> <p>フルート：フルートを媒体としての音楽表現力の向上を目指す。</p> <p>クラリネット：クラリネットを演奏する上で求められる演奏技術、音楽性や知識を習得すること。またレパートリーの拡充を目的とする。</p> <p>サクソフォン：さまざまな作品を演奏するために必要な能力を高める。</p>	<p>声楽：演奏するために必要な技術、音楽性、表現力を身につけることを目標とする。これまでに身につけた呼吸法・発声法を駆使しながら、レパートリーを広げていく。下級学年で勉強を重ねた外国歌曲との相違点を踏まえ、試験課題である日本歌曲の演奏法を身につける。</p> <p>ピアノ：試験課題を演奏するために必要な技術・音楽性・表現力を身につけることを到達目標とする。</p> <p>ヴァイオリン：獲得した知識・技能を自らの演奏に活かす。</p> <p>ヴィオラ：演奏技術のみならず、音楽性を伴った意味のある音を出せるようにする。</p> <p>チェロ：前期で習得したテクニックを応用し、与えられた課題をさらに高度に演奏することを目標にする。</p> <p>また独奏のみではなく、他の楽器との合奏を経験し、幅広い音楽性を身につける。</p> <p>フルート：音楽を表現するための妨げとなる、フルートという楽器の制約（低音域の音量が乏しい、跳躍した音型のレガート奏法の困難さ等）を克服するための方法を自ら考え、適応力を身につける。</p> <p>クラリネット：楽曲の構成を把握する能力を身につける。</p> <p>サクソフォン：現代の作品を研究し、さらにレパートリーを拡大していく。</p>						◎	◎	◎	○	
21UMUP4206	主 専 実 技 IV	4	<p>声楽：芸術作品を演奏するに相応しい能力を高める。</p> <p>ピアノ：芸術作品を演奏するために必要な能力を高めることを科目目的とする。</p> <p>ヴァイオリン：後期の卒業演奏のための技術的・音楽的理解の習得を目的とする。</p> <p>ヴィオラ：4年間の学習を完成させる。</p> <p>チェロ：これまでに習得してきた演奏技術の演奏表現の総合的完成を目的とする。</p> <p>フルート：フルートを媒体としての音楽表現力の向上を目指す。</p> <p>クラリネット：クラリネットを演奏する上で求められる演奏技術、音楽性や知識を習得すること。またレパートリーの拡充を目的とする。</p> <p>サクソフォン：音楽性を磨きレパートリーの拡充を図る。</p>	<p>声楽：演奏するために必要な技術、音楽性、表現力を身につけることを目標とする。声楽曲を演奏するために必要な発声法、呼吸法等の歌唱法のさらなる向上を目指す。楽曲の深い理解と解釈を習得する。レパートリーのさらなる拡大をはかる。</p> <p>ピアノ：試験課題を演奏するために必要な技術・音楽性・表現力を身につけることを到達目標とする。</p> <p>ヴァイオリン：音楽家としての資質を高めるため、演奏技術、音楽的理解、表現力のさらなる向上を目指す。</p> <p>ヴィオラ：卒業演奏へ向けてこれまでの学習を再検討し、不足している部分を強化するとともに、自らが得意とする技法や表現をより伸ばしていくようにする。また、プロフェッショナルとして求められる資質についても考えられるようにする。</p> <p>チェロ：チェロのためのソナタ、協奏曲、もしくはそれに準ずる作品を選択し、曲の完成を目標とする。</p> <p>フルート：音楽を表現するための妨げとなる、フルートという楽器の制約（低音域の音量が乏しい、跳躍した音型のレガート奏法の困難さ等）を克服するための方法を自ら考え、適応力を身につける。</p> <p>クラリネット：舞台での演奏を念頭に置き、必要十分な技術、表現力を身につける。</p> <p>サクソフォン：卒業演奏での作品を決定する。これまでの学習内容を生かし、さらに研究を深める。</p>						◎	◎	◎	◎	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号													
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志向性	1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1
21UMUP2213	副専声楽実技Ⅱ B	2	前期に学んだ基礎的呼吸法、発声法をもとに発声の追求に取り組む。専門や、教職に必要な基本的な事柄をさらに充実させ、歌うということを習得する。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	声を用い自分を表現できることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。				◎				○						
21UMUP2214	副専ピアノ実技Ⅱ A	2	「副専ピアノ実技Ⅰ」に引き続いてより高度な演奏技術および表現力を養う。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	基礎的な技術を高め、より多彩な曲の表現に役立てる。安定したテクニックで、特にバッハの様式感を踏まえた演奏を目指し、ポリフォニー作品を取り組む。 ピアノ専修の学生は特に初見能力を高める。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。			◎					○						
21UMUP2215	副専ピアノ実技Ⅱ B	2	「副専ピアノ実技Ⅰ」に引き続いてより高度な演奏技術および表現力を養う。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	基礎的な演奏能力をさらに高め、古典派の音楽に親しみ、様式感を理解し、音楽的表現を目指す。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。			◎					○						
21UMUP3216	副専声楽実技Ⅲ A	3	2年間学んだ呼吸法、発声法の充実と、音楽内容のさらなる追求に取り組み、専門や、教職に生かせることを目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	声を用い自分を表現できることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。			◎					○						
21UMUP3217	副専声楽実技Ⅲ B	3	入学以来の学習の成果を十分に發揮することを目指す。これまでの学習の集大成として、技術、音楽性、豊かな人間性を兼ね備えた演奏ができるすることを目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	声を用い自分を表現できることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。			◎					○						
21UMUP3218	副専ピアノ実技Ⅲ A	3	「副専ピアノ実技Ⅱ」に引き続いて、より高度な演奏技術および表現力を養う。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	基礎的な技術を安定化させ、より多彩に各曲の表現をする。ロマン派の音楽の様式感を踏まえた表現の演奏を目指す。 ピアノ専修の学生は初見能力をさらに高め、さまざまな曲に躊躇せず取り組む。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。			◎					○						
21UMUP3219	副専ピアノ実技Ⅲ B	3	「副専ピアノ実技Ⅱ」に引き続いて、より高度な演奏技術および表現力を養う。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	さらに演奏技術を高め、古典派はもとより、ロマン派の音楽も表現できるよう自発的な音楽づくりを目指す。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。			◎					○						
21UMUP4220	副専ピアノ実技Ⅳ A	4	「副専ピアノ実技Ⅲ」に引き続いて、より高度な演奏技術および表現力を養うことを目的とする。	基礎的な技術のさらなる向上と読譜力および表現力のアップを目指す。			◎					○						

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例： <input type="radio"/> ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 <input type="radio"/> ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 1. 知識・理解 2. 技能・表現 3. 思考・判断 4. 態度・志向性 1-1 1-2 1-3 2-1 2-2 2-3 3-1 3-2 3-3 4-1 4-2 4-3									
21UMUP4221	副専ピアノ実技IV B	4	「副専ピアノ実技III」に引き続いて、より高度な演奏技術および表現力を養うことを目的とする。	これまでに積み上げてきた演奏技術を駆使して、各自で自由に選択した曲を、その曲の持つ様式感にふさわしい演奏ができるように総仕上げする。				◎				○		
21UMUP1222	ソルフェージュⅠ A	1	読譜・聴音・視唱などの基礎能力の他に、演奏するために必要な作曲家の意図を総合的に把握し表現できる能力を養う。	音楽を表現するために必要なリズム感、フレーズ感を養い、教職等の現場での実践力を養う。	◎			○						
21UMUP1223	ソルフェージュⅠ B	1	前期にひきつづき、読譜・聴音・視唱などの基礎能力の他に、演奏するために必要な作曲家の意図を総合的に把握し表現できる能力を養う。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	#、♭一つまでの旋律に適した伴奏を付けることができ、複数の旋律を聞きわけることができるようになる。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎			○						
21UMUP2224	ソルフェージュⅡ	2	音楽活動をするための基本的スタンスを確立する。音楽の基礎能力を各個人の能力に従つて順次高めていく。	すべての調の旋律の初見視唱とともに、その旋律への簡単な伴奏付けができるようになる。さらに社会での音楽活動に必要な初見視奏や移調奏などの能力の養成も合わせて行う。	◎			○						
21UMUP1225	和声法 A	1	楽典の知識を身につけ、構築の柱の一つである和音の流れ（和声）をベースに楽曲構成、対位的な旋律の構築について作品の考察をする。これにより作曲家の意図を正確につかみ、創造的な表現に活用し得る能力を養成する。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	基本形によるバス課題（調号3つまでの調）を四声体でできるようになる。8小節～10小節位の曲。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎			○						
21UMUP1226	和声法 B	1	西洋音楽の中核をなすバッハ・モーツアルト・ベートーヴェンなどの作曲家によって完成された和声技法の基礎を学び、和音の使い方を通して、作曲家の意図を正確につかみ表現できる能力を養う。	バスの動きをもとに四声体にするが、その際に旋律的に美しいソプラノ作成を目指す。	◎			○						
21UMUP2227	指揮法 I	2	音楽性豊かな表現をするための基本的な指揮法の習得を目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	指揮者と指導者の目線で楽譜を捉えて、それを伝える身体的表現を身につける。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。				◎		○		○		
21UMUP2228	指揮法 II	2	さらに多彩な表現をするための応用的な指揮法の習得を目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	指揮者と指導者の目線で楽譜を捉えて、それを伝える身体的表現を身につける。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。				◎		○		○		
21UMUP4229	作家作品研究 I	4	西洋の音楽作品にみられる音楽そのものの背景を、その歴史的意義と文化史的意味を視野にいながら、演奏解釈にも有用な分析の方を習得することを目的とする。	音楽作品の創作過程とその文化的背景を知ることで、自ら音楽表現に資することを目標とする。	◎			○						

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例： <input checked="" type="radio"/> ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 <input type="radio"/> ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 1. 知識・理解 2. 技能・表現 3. 思考・判断 4. 態度・志向性 1-1 1-2 1-3 2-1 2-2 2-3 3-1 3-2 3-3 4-1 4-2 4-3									
21UMUP3238	楽曲研究 A	3	楽譜から音楽を読みとる力、すなわち読譜力を高める。そして、音楽への理解力と構成力の感性を、創造的に深めていく。	小品の楽曲を分析し、独自の演奏解釈が可能となる。そのための音楽的基礎知識をマスターする。	◎	◎		○						
21UMUP3239	楽曲研究 B	3	読譜力を高める。楽譜の流れから作曲家の心の中での楽想のふくらんでいく過程を読みとっていく。	授業内に取り上げた楽曲（特にソナタ形式）を充分に理解し、それ以外の楽曲に応用する分析力をつける。	◎	◎		○						
21UMUP3240	電子楽器	3	卒業後、教員、音楽教室講師など音楽の職業についていた時に役立つ力を身につけ、クラシック以外の様々なジャンルの音楽についての知識も深め、あらゆるジャンルの曲にも取り組み、様々な対応力を身につける。	科目習得時には、各自志向の曲が何曲か仕上がり、即興演奏の手法も身につける事を目標とする。				○						○
21UMUP1241	音楽史 I	1	人類が多様な音の世界を秩序付け、音楽を生成し洗練して行った歴史を、古代から中世にかけての音楽的出来事を、我が国と西洋の状況を常に比較しながら概観することによって、ダイナミックな音楽的理解を可能にすることを目的とする。特に、我が国の音楽の歴史的流れを充実に知ることによって、西洋音楽のみではなく我が国の音楽文化の再認識につながることに主眼を置く。	西洋と我が国の歴史的な音楽文化を体系的に理解認識できることを目標とする。		◎		○						
21UMUP2242	音楽史 II	2	「音楽史 I」を受け、14世紀から現代までの音楽の流れを我が国の音楽と比較して認識する。さらに現代音楽や民族音楽の領域にも視点を拡げ、多様な音楽の存在を認識する。我が国の伝統邦楽や芸能がもつ固有の音楽性を鑑賞しうる能力の醸成を目的とし、現代社会を彩るポピュラー音楽の受容の在り方をも射程に入れ、現代の音楽の教育的側面にも留意した幅広い音楽観の醸成を目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	我が国と西洋の音楽文化を具体的な音楽作品の鑑賞とともに体系的に把握できることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎		○						
21UMUP1243	合唱 I	1	声の重なりが作る奇跡に耳を傾け、合唱の魅力を味わうとともに、全員で一つの音楽をつくる喜びを感じ、表現したいイメージをふくらませ豊かにする。	声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して表現を工夫しながら合わせて歌うこと。また、社会で協調できる能力の育成を目標にする。				○	○					
21UMUP2244	合唱 II	2	声の重なりが作る奇跡に耳を傾け、合唱の魅力を味わうとともに、全員で一つの音楽をつくる喜びを感じ、表現したいイメージをふくらませ豊かにする。	声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して表現を工夫しながら合わせて歌うこと。また、社会で協調できる能力の育成を目標にする。				○	○					

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号												
					凡例： <input type="radio"/> ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 <input checked="" type="radio"/> ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 1. 知識・理解 2. 技能・表現 3. 思考・判断 4. 態度・志向性 1-1 1-2 1-3 2-1 2-2 2-3 3-1 3-2 3-3 4-1 4-2 4-3												
21UMUP3245	合唱	III	3	声の重なりが作る奇跡に耳を傾け、合唱の魅力を味わうとともに、全員で一つの音楽をつくる喜びを感じ、表現したいイメージをふくらませ豊かにする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うことを通して社会で協調できる能力の育成を目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。				<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>							
21UMUP1246	学内演奏 I	1	「演奏者」と「鑑賞者」の両方の視点を養わなければ、音楽を真に理解し、探求することは不可能である。この科目は「演奏」と、その「鑑賞」を通して、音楽とは何か、演奏とはどういうことなのかを体感することを目指す。	演奏やレクチャーを受講し、客観的に音楽をとらえていくことを学ぶ。							<input checked="" type="radio"/>					<input checked="" type="radio"/>	
21UMUP2247	学内演奏 II	2	「演奏者」と「鑑賞者」の両方の視点を養わなければ、音楽を真に理解し、探求することは不可能である。この科目は「演奏」と、その「鑑賞」を通して、音楽とは何か、演奏とはどういうことなのかを体感することを目指す。	鑑賞することで、演奏者の音楽に対する取り組みを学び、演奏者としてそのことを活かせることを目標とする。							<input checked="" type="radio"/>					<input checked="" type="radio"/>	
21UMUP3248	学内演奏 III	3	「演奏者」と「鑑賞者」の両方の視点を養わなければ、音楽を真に理解し、探求することは不可能である。この科目は「演奏」と、その「鑑賞」を通して、音楽とは何か、演奏とはどういうことなのかを体感することを目指す。	・多様な演奏を聞き、講義を受講することにより、音楽に対する感性を養い、知識の幅を広げる。 ・演奏者および鑑賞者としてのマナーを習得する。							<input checked="" type="radio"/>					<input checked="" type="radio"/>	
21UMUP3249	器楽合奏	3	教育現場における多様性に学生が自ら考え、創意工夫をし、対応できる力を身につける事を目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	アルトリコーダーの基本的な奏法を習得し、合奏を通して、アンサンブルの中における個の表現力とアンサンブル全体の表現力にイメージを及ぼす事により、協調性を育み、自らの演奏の問題を発見し、それを克服する術を自ら考える。 教育現場における邦楽への関心の高まりを受けて、篠笛の奏法も学習する。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。				<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>								
21UMUP3250	邦楽	3	学校教育において「和楽器の履修」が義務となっている現状では、その指導者の育成は急務である。その必要性は学校だけにとどまらず、一般社会においても望まれている。本講座では、邦楽を邦楽器（箏）の演奏と歌唱の両面から学び、基礎知識および演奏法の習得を目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	箏の基礎知識を理解できるようになることはもちろんあるが、箏の奏法を習得し、演奏できるようになることを最も重要と考え、到達目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。						<input checked="" type="radio"/>						<input checked="" type="radio"/>	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号												
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目												
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志向性	1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3
21UMUP2251	副科器楽A	2	自らの専門以外の楽器の奏法の習得を目的とし、広く器楽教育の視野を持つようにする。本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	<p>ヴァイオリン：ヴァイオリンに関する基本的な知識、および基礎的な奏法を習得する。</p> <p>ヴィオラ：ヴィオラに関する基本的な知識、および基礎的な奏法を習得する。</p> <p>チェロ：チェロの様々な基礎技術や楽器の構造、歴史などを幅広く身につけ、与えられた課題を慎重に且つ真面目に自発的に取り組む姿勢を養う。そして前期の実技試験に於いて、簡単な小品を楽しく演奏できるようになる。</p> <p>フルート：フルートに関する基本的な知識、および基礎的な奏法を習得する。</p> <p>自分の専門実技以外の楽器の習得を目指す事により、それを伝える方法を自ら考える。</p> <p>クラリネット：クラリネットに関する基本的な知識、および基礎的な奏法を習得する。</p> <p>サクソフォン：サクソフォンに関する基本的な知識、および基礎的な奏法を習得する。</p> <p>クラシックギター：ギターの様々な基礎技術や楽器の構造、歴史などを幅広く身につけ、与えられた課題を慎重に且つ真面目に自発的に取り組む姿勢を養う。</p> <p>そして前期の実技試験に於いて簡単な小品を楽しく演奏できるようになる。</p> <p>教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。</p>								◎	◎				
21UMUP2252	副科器楽B	2	自らの専門以外の楽器の奏法の習得を目的とし、広く器楽教育の視野を持つようにする。本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	<p>ヴァイオリン：ヴァイオリンの基礎的な奏法を確かなものにし、さらに表情豊かに楽曲の演奏ができるようになる。</p> <p>ヴィオラ：ヴィオラの基礎的な奏法を確かなものにし、さらに表情豊かに楽曲の演奏ができるようになる。</p> <p>チェロ：チェロの様々な基礎技術や楽器の構造、歴史などを幅広く身につけ、与えられた課題を慎重に且つ真面目に自発的に取り組む姿勢を養う。そして後期の実技試験に於いて簡単な小品をさらに表情豊かに楽しく演奏できるようになる。</p> <p>フルート：フルートの基礎的な奏法を確かなものにし、さらに表情豊かに楽曲の演奏ができるようになる。自分の専門実技以外の楽器の習得を目指す事により、それを伝える方法を、自ら考える。</p> <p>クラリネット：クラリネットの基礎的な奏法を確かなものにし、さらに表情豊かに楽曲の演奏ができるようになる。</p> <p>サクソフォン：サクソフォンの基礎的な奏法を確かなものにし、さらに表情豊かに楽曲の演奏ができるようになる。</p> <p>クラシックギター：ギターの様々な基礎技術や楽器の構造、歴史などを幅広く身につけ、後期の実技試験で簡単な小品をさらに表情豊かに楽しく演奏できるようになる。</p> <p>教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。</p>								◎	◎				
21UMUP1253	イタリア語表現演習	1	音楽学習者に必修のイタリア語の初步文法と発音を徹底する。	<p>1. 同じ5つの母音を持つ日本語とイタリア語の音の違いを理解し、発音練習を繰り返すことにより、歌唱に役立てる。</p> <p>2. イタリア語の初步文法を理解する。</p> <p>3. 簡単な会話を習得する。</p>						◎							
21UMUP2254	声楽演奏研究ⅠA	2	個人レッスンで学んでいる呼吸法、発声法をもとに、さらに楽譜を深く読み取る力を身につけ、より良い演奏を目指す。	主にイタリア語の歌曲・アリアの基礎的な演奏法・読譜法・ディクションを習得し演奏できるようになること。						◎		○	○	○	○	○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号												
					凡例： ◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目												
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志向性	1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3
21UMUP225	声楽演奏研究ⅠB	2	音楽（フレージング・アーティキュレーション等）と文学（原詩の意味内容・リズム等）の関連を考察し、色彩豊かで立体的なドイツ歌曲の演奏法（歌唱法）を習得する。	声楽専修生、器楽専修生の双方にとって重要なレパートリーであるドイツ音楽を演奏する上で必要な技術、感性、思想等が身につくことを目標とする。			◎			○		○		○		○	
21UMUP326	声楽演奏研究ⅡA	3	声楽作品の中でも触れる機会の少ないフランス歌曲を、時代背景や文化とともに学びつつ、歌唱のためのフランス語の発音法を学び、演奏できる技術を習得していく。	ベルリオーズによって名付けられた「メロディー・ランセーズ」（フランス歌曲）の最盛期の主な作品を各自が演奏できるように実習する。		◎			○		○		○		○		
21UMUP327	声楽演奏研究ⅡB	3	歌唱の中でいかに自然な日本語として発話するか、日本語の言葉の一つ一つを生きた言葉として歌唱するにはどうすればよいか、ということを様々な曲の実習を通して考え、歌唱することができるようになる。	1. 楽譜通りに曲を再現する。 2. 日本語としての発話を徹底させる。 3. 詩と旋律、ピアノ部分との関わりから、その曲をどのように表現したいかを考えて歌唱できるようにする。		◎			○		○		○		○		
21UMUP428	声楽演奏研究ⅢA	4	バロックからロマン派までの音楽史上に重要な位置を占めるオラトリオを多く学習することを目的とする。	西洋音楽の重要な位置を占めるオラトリオの勉強をすることで、言葉と音楽で物語を表現すること。 豊かな自己表現ができることを目標とする。		◎			○		○		○		○		
21UMUP429	声楽演奏研究ⅢB	4	声楽と器楽のアンサンブルの音楽的特色を学び、その学習を通じて、弦楽器や管楽器の音色、技術的な特色を学び声楽を含む室内楽を作り、演奏できるレベルに仕上げる。	弦の伴奏に対応でき、内容を伝えることができる歌唱。 協調性と豊かな自己表現ができる事を目標とする。		◎			○	○		○		○		○	
21UMUP320	演技演習	3	様々な芸術分野が複雑にかつ有機的に関連するオペラを、音楽と演劇両面からの理解を深めるため、まず演じる基礎となる種々の演習を実践することを目的とする。	オペラの台本から読み取れる感情や背景等に関する知識の理解。 共同作業によるコミュニケーション、チームワークやリーダーシップ、責任感。肉体を動かすことによる心身の解放。 これらを総合的に活用し、自然な動きや自由な自分らしい発想による役作りができる事を目標とする。		○		◎	○								
21UMUP421	オペラ	4	一本のオペラを通して演奏し、演技も付けることにより、より確実な呼吸法と発声法と表現法を体験する。 演じる楽しさと喜びを体験する。 集団で創り上げる喜びと達成感を体験する。	オペラの演奏と演技をすることにより、客観的に自分自身を理解するようになること。 クラス授業で沢山の同級生とひとつの作品を公演にもっていく過程において、相手を理解し、共同して作りあげる喜びを体験すること。		○		◎	○								
21UMUP422	合唱指導法	4	多種多様な要求に応えることができる専門の知識と、柔軟で魅力的な指導力を身につけることを目的とする。	指導することで、多岐にわたる問題を解決する能力を養い、社会に出た際に柔軟に対応できる能力を養うことを目標にする。			◎			○	○		○		○		
21UMUP223	協奏曲Ⅰ	2	ピアノとオーケストラの合奏形態の中で、管弦楽器の様々な音色や特性を念頭におき、ソリストとして音楽的で完成度の高い演奏とは何かを追求していく。	相互の楽器の特徴を發揮しながら調和するように作られた作品（ピアノという独奏楽器と管弦楽との合奏）に、どのように取り組み、表現するかを学ぶ。		○		◎	○		○		○				
21UMUP324	協奏曲Ⅱ	3	ピアノとオーケストラの合奏形態の中で、管弦楽器の様々な音色や特性を念頭におき、ソリストとして音楽的で完成度の高い演奏とは何かを追求していく。「協奏曲Ⅰ」よりもさらに内容の高いものが要求される。	「協奏曲Ⅰ」と同様、相互の楽器の特徴を發揮しながら調和するように作られた作品（ピアノという独奏楽器と管弦楽との合奏）に、どのように取り組み、表現するかを学ぶ。また「協奏曲Ⅰ」で習得した合奏方法を、さらに音楽的な演奏を高めるために学習し習得していく。		○		◎	○		○		○				

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号															
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目															
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志向性	1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
21UMUP4265	伴奏法	4	音楽表現の中で、パートナーと五分五分の関係にある伴奏の重要性を理解し、伴奏に求められている柔軟で確実なテクニックや多彩で豊かな音楽性について考察し、質の高い演奏技能を習得する。その上で、一人では完成できない曲とともに作り上げていく喜びを感じ、さらに多彩で深い表現を求めて自主的に探究していく力を養うことを目的とする。	パートナーとともに音楽を表現することに喜びを感じるために、安定した信頼できるテクニックを習得すること。また、ともに音楽を作り上げていくパートナーの息遣いを感じ、そのフレーズに相応しい表現のために柔軟な対応ができる力を養うことを目標とする。								◎		○		◎	○			
21UMUP4266	ピアノアンサンブル	4	ピアノという楽器に習熟し、パートナーとのふれあいを通じてアンサンブルとしての調和を学び、ともに生きた音楽を作りあげるよろこびを体得する。	できるだけ多くの楽曲に接し、前期・後期の最終授業では演奏ホールで仕上げの演奏を発表する。								◎		○		◎	○			
21UMUP4267	ピアノ指導法	4	教えることを通して、改めて自分のピアノ、音楽に向かう姿勢など見つめ直す機会とする。	演奏をクリティカルな聴き方をするだけでなく、その楽曲について作曲家の意図を考え、どうすればそれが聴き手に伝わる演奏となるのか、具体的に考える。生徒が楽曲について興味を持つようなレッスンについて考える。 基礎的な読譜力を高める。								◎		○	○		○			
21UMUP3268	チェンバロ	3	チェンバロ奏法の習得とバロック時代の音楽習慣の理解を目指す。	バロックの作品を演奏するときに戸惑いがちな装飾法やアーティキュレーションといったバロック独特の演奏習慣を理解するために、チェンバロの奏法を学ぶ。 また、バロックから初期古典派時代に存在した独特な音楽的演奏習慣や演奏語法の知識を深めることにより、古典派さらにロマン派音楽への変遷を理解することを目指す。	◎	○														
21UMUP3269	重奏演習	3	ピアノを含む室内楽曲において、他楽器とのアンサンブルの楽しさや難しさを知り、合わせるテクニックを身につける。	他楽器との関係が対等であることを理解し、時に伴奏、時に主導権を握って音楽を進めていく双方の弾き分けを身につける。								◎		○		○	○	○		
21UMUP4270	合奏指導法	4	合唱、オーケストラ、吹奏楽など音楽家同士のコミュニケーションが必要とされる現場で、指導者としてどのようにアプローチしていくかを考察する。楽器、声楽の知識、また演奏技術や作品の熟知など様々な面の研究が必要とされる。また、合奏（音づくり）指導や練習方法などを学ぶ。	合奏指導法では、指導者の目線で音楽を捉えつつ、また相手に「どのように伝えるのか」をテーマに研究していく。								◎		○	○	○	○			
21UMUP1271	合奏I	1	様々なスタイルの管弦楽曲の演奏を通じ、管弦楽器の奏者に要求される合奏に関する基礎技術および知識を習得する。また、異なる楽器とともに演奏する楽しさを体感する。	基本的な合奏の技術を身につける。								○	○	○	○					
21UMUP2272	合奏II	2	様々なスタイルの管弦楽曲の演奏を通じ、管弦楽器の奏者に要求される合奏に関する基礎技術および知識を習得する。また、異なる楽器とともに演奏する楽しさを体感する。	より高度なアンサンブル能力を身につける。								○	○	○	○					
21UMUP3273	合奏III	3	様々なスタイルの管弦楽曲の演奏を通じ、管弦楽器の奏者に要求される合奏に関する基礎技術および知識を習得する。また、異なる楽器とともに演奏する楽しさを体感する。	自分の声部だけでなく、音楽全体を把握できる能力を身につける。								○	○	○	○					

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号														
					凡例： <input checked="" type="radio"/> ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 <input type="radio"/> ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目														
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志向性	1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2
21UMUP4274	合奏	IV	4	様々なスタイルの管弦楽曲の演奏を通じ、管弦楽器の奏者に要求される合奏に関する基礎技術および知識を習得する。また、異なる楽器とともに演奏する楽しさを体感する。	さらに高度なアンサンブル能力を身につける。また舞台マナー等にも気を配れるようになる。							<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			